

精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名： 横浜市立大学精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名： 須田 顕

住 所： 〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦 3-9 精神医学教室 (A325)

電話番号： 045 - 787 - 2667

F A X： 045 - 783 - 2540

E-mail： psy_resi@yokohama-cu.ac.jp

■ 専攻医の募集人数： (10) 人

■ 応募方法：

履歴書を下記宛先に送付の上、筆記及び面接試験の申し込みを行う。

宛先： 〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦 3-9 精神医学教室 (A325)

医局長 須田 顕

TEL： 045-787-2667 (精神科医局)

FAX： 045-783-2540 (精神科医局)

担当者： 須田 顕 (医局長)

■ 採用判定方法：

プログラム責任者・副プログラム責任者・医局長らが履歴書記載内容と面接結果に基づき、厳正な審査を行い採用の適否を判断する。その後、横浜市立大学精神科専門医研修プログラム委員会における承認をもって決定される。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念 (全プログラム共通項目)

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

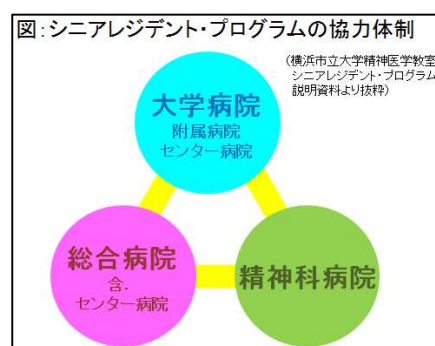
2. 使命 (全プログラム共通項目)

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

横浜市立大学医学部精神医学教室は昭和 22 年に開講され、平成 30 年で 71 年目を迎えた。昭和 42 年には小児精神神経科（現在の児童精神科）が外来診療科として設置されている。大学附属の病院として、大学医学部がある附属病院（金沢区福浦）と、附属市民総合医療センター（南区浦舟町）の 2 つがあり、医療機能を分担し質の高い精神科医療を提供している（詳細は各施設の特徴を参照されたい）。

新専門医制度にあたり当教室の最大の利点は、既に後期研修プログラムを実践してきた実績があることだと思われる。長年にわたりシニアレジデントの 3 年間の教育を重要視しており、原則 1 年目は大学病院（附属病院/センター病院）で精神科診療の基本的な技術を身につけ、2 年目には総合病院精神科・閉鎖病棟、3 年目には精神科病院で研修を行い、この 3 年間で精神科専門医および精神保健



指定医に必要な症例を経験できるようプログラムを運用してきた（図参照）。本プログラムの連携協力施設は、従来「関連病院」として、シニアレジデントの教育の一端を担ってきており、常勤として在籍する複数の教室員が熱心に若手の指導を行ってきている。また、臨床のみならず研究での協力体制も確立されている。もう一つの特徴としては、横浜の土地柄を反映し、精神科スタッフの出身大学が多種多様であることである。このため、皆が皆を“共に研鑽してゆく仲間”として受け入れようとする姿勢があり、人と人との関わりを大切にしながら、働きやすい環境を作り上げようとする文化が根付いている。

このような歴史があるため、当プログラムでは児童から老年期、内因性の病態から器質性の病態にいたるまで幅広く症例を経験することができ、また薬物療法のみならず、生物学的なアプローチや精神病理まで広く学ぶことが出来る。3 年間の経験により「精神疾患」はもとより、「人間」や「自分」を様々な角度から検証し、発見・再発見できるようになるであろう。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

■ プログラム全体の指導医数： 95 人

■ 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	3,623	845
F1	1,992	388
F2	9,336	2,997
F3	5,214	1,066
F4 F50	3,088	318
F4 F7 F8 F9 F50	3,233	365
F6	276	64
その他	963	205

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：横浜市立大学附属病院
- ・施設形態：公立病院
- ・院長名：相原 道子
- ・プログラム統括責任者氏名：須田 顕
- ・指導責任者氏名：須田 顕
- ・指導医人数：（ 10 ）人
- ・精神科病床数：（ 26 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	973	89
F1	30	1

F2	288	24
F3	546	51
F4 F50	554	40
F4 F7 F8 F9 F50	243	10
F6	38	8
その他	47	45

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

横浜市立大学附属病院の精神科病棟は 26 床（個室 6 床、保護室 2 床）の開放病棟である。入院診療においては、近年の平均在院日数は約 28 日、年間入院数は約 270 名で、多くの症例を経験することが出来る。開放病棟であることから気分障害（F3）や神経症（F4）が多いが、総合病院であり、認知症疾患医療センターが設置されていることから、器質・症状精神障害も増加している。また、身体合併症、治療抵抗性統合失調症に対するクロザリル治療、麻酔科と協同して行う修正型電気けいれん療法など、多様な病態への診療を行っている。緩和ケアやコンサルテーション・リエゾンにも力を入れており、身体診療科との連携も密に行っている。入院診療はグループ制で行っており、専攻医はグループ長やサブグループ長の指導のもとで診療を行うため、安心して精神医学の研鑽を積むことができる。外来診療では、一般再診とは別に、専門外来として認知症（認知症疾患医療センター）や神経免疫疾患の専門外来を行っている。また、うつ病を対象とした復職デイケアや統合失調症を対象としたリカバリーを目的としたリハビリテーション・プログラムなど、集団での認知行動療法を行っている。児童精神科も有するため、児童・思春期症例も経験することができ、当施設では、幅広く精神科医療を経験することができる。

B 研修連携施設

① 施設名：公立大学法人 横浜市立大学附属市民総合医療センター

- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：井上 登美夫
- ・指導責任者氏名：高橋 雄一
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 50 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	230	13
F1	30	13
F2	280	79
F3	337	57
F4 F50	496	76
F4 F7 F8 F9 F50	645	91
F6	27	21
その他	347	4

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

幼児期から老年期にわたる幅広い年齢層の精神・行動・情緒面の問題を扱っている。外来診療は一般外来に加えて、特殊外来として児童精神科、脳波外来（てんかん専門外来）、もの忘れ外来がある。入院診療は病床数 50 床の閉鎖病棟であり、精神科救急・合併症入院料病棟として、主に精神疾患の急性期の症状を有する患者を対象としている。その他、総合病院精神科の役割として、高度救命救急センターの精神科医師との連携、他の診療科へのコンサルテーション・リエゾン業務、緩和ケアにも力を入れている。

② 施設名：国立病院機構 横浜医療センター

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：平原 史樹
- ・指導責任者氏名：斎藤 聖
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 40 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	246	26
F1	20	4
F2	171	37
F3	352	106
F4 F50	31	11
F4 F7 F8 F9 F50	440	46
F6	47	2
その他	64	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、510 床を有する地域の中核的な総合病院であり、精神科も病棟（閉鎖 40 床）を備えている。このような治療環境にあるため、当院での研修においては、気分障害・統合失調症などの急性期、認知症やその他の器質性・症状性精神障害、児童思春期の摂食障害など、幅広い症例を経験することができる。修正型電気けいれん療法に関しても豊富な経験を得られる。当院は救命救急センターも備えており、リエゾン・コンサルテーションでは、一般病棟でのせん妄・抑うつ等の診療だけではなく、自殺企図による救急搬送のケースや、重篤な身体合併症を併存する精神疾患患者の診療経験を数多く得ることもできる。

③ 施設名：神奈川県立精神医療センター

- ・施設形態：公立病院
- ・センター長名：岩井 一正
- ・指導責任者氏名：小澤 篤嗣（神奈川県立精神医療センター副院長）
- ・指導医人数：（ 10 ）人
- ・精神科病床数：（ 323 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	20	10
F1	1,400	200
F2	1,450	250
F3	655	145
F4 F50	216	34
F4 F7 F8 F9 F50	246	84
F6	33	7
その他	3	3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

神奈川県内の公的単科精神科病院であり、合わせて 70 床の精神科救急病棟を有する精神科救急の中核的病院である。神奈川県精神科救急医療体制の基幹病院 7 病院の中で唯一の精神科単科病院で、基幹ベッドのほぼ半数 16 床を担当している。一般精神科医療から専門医療まで、幅広く豊富な症例がある。具体的には、一般精神科医療の流れでは、難治性精神疾患に対し、地域と連携し m-ECT やクロザピンユニットを用意してクロザピン治療を積極的に行っている。専門医療としては、依存症、ストレスケア（難治性気分障害）、思春期のそれぞれに対し、専用の病棟や専門外来を持っている。特に、依存症では、SMARRP（MATRIX モデルに基づいたワークブック日本語版を開発後、全国に普及した薬物再使用防止プログラム）や SCOP（感情に焦点を当てた多職種協働包括的治療戦略）という治療技法の開発と実践も行っている。また、ストレスケアでは、反復性経頭蓋磁気刺激法（rTMS）や鍼灸を臨床研究として取り入れ、NIRS（光トポグラフィー）も先進医療として実施している。

さらには、指定入院医療を担当する 33 床のフル規格の医療観察法病棟があり、心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った法の対象者に対し、十分に配置された多職種チームによるガイドラインに基づいた治療を実施している。当院では、医療観察法鑑定入院および指定通院医療を含め、一貫した医療観察法医療の流れを習得できる。県内の広域に及ぶ指定通院対象者を含め、年間 3000 件の訪問看護も行い、地域医療を実践している。

④ 施設名：医療法人 積愛会 横浜舞岡病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：加瀬 昭彦
- ・指導責任者氏名：加瀬 昭彦
- ・指導医人数：（ 8 ）人
- ・精神科病床数：（ 600 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	558	282
F1	46	49
F2	638	549
F3	280	109
F4 F50	80	20
F4 F7 F8 F9 F50	116	53
F6	6	5
その他	285	57

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

都市型の単科精神科病院であり、急性期治療病棟、精神療養病棟での病院精神科医療全般について学ぶことができる。青年期から老年期、身体合併症など、対象としている疾患は多岐に及んでいる。入院症例は認知症、統合失調症、気分障害など精神科医として最低限知っておかなければならない疾患についてカバーしている。精神科における一般的な疾患についての知識や基本的技能、薬物療法、行動制限の手順など基礎的な技能と法的な知識を学ぶことができる。内科的な身体管理も常勤内科医の指導のもとに行われている。Illness management and Recovery(IMR)など、数々の社会復帰プログラムや地域生活支援にも取り組んでおり、臨床現場で地域連携についても学習する機会がある。横浜市から認知症疾患医療センターを委託されており、認知症の鑑別診断、外来治療、家族相談など幅広い診療を学ぶことができる。

併設施設等：精神科急性期治療病棟、精神療養病棟、精神科作業療法、精神科デイケア、精神科作業療法、精神科救急輪番

⑤ 施設名：医療法人 誠心会 神奈川病院

- ・施設形態：私立 精神科病院
- ・院長名：玉澤 彰英
- ・指導責任者氏名：山口 和己
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 163 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	254	63
F1	319	81
F2	1,002	254
F3	300	76
F4 F50	15	4
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	0	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

アルコール依存症治療病棟、精神科急性期病棟、認知症治療病棟を有し、各々専門的な治療を行っている。アルコール依存症治療病棟では、解毒・離脱期の管理や、アルコール教育プログラムなどを実施しており、精神科急性期病棟では、薬物療法や作業療法、心理教育を用いて、短期・集中的な治療を行っている。また、認知症治療病棟では、適切な介護、薬物療法、作業療法士・音楽療法士等によるリハビリテーション・プログラムの実施などを軸とした治療を行い、短期集中的に精神科的治療とケアを行っている。外来は一般精神外来と物忘れ外来があり、前者ではアルコール症・統合失調症・うつ病などの各種精神疾患の診療を行っており、後者では認知症の鑑別診断と周辺症状に対する治療・介護相談などを行っている。

⑥ 施設名：公益財団法人積善会 日向台病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：長谷川 吉生
- ・指導責任者氏名：長谷川 吉生
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 299 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	25	17
F1	5	5
F2	711	335
F3	257	75
F4 F50	116	17
F4 F7 F8 F9 F50	33	2
F6	6	9
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、5 病棟、精神科病床 299 床を有する単科精神科病院である。横浜市内の民間病院では数少ないスーパー救急病棟を有しており、精神科救急医療の一翼を担っている。病棟は機能分化しており、一般精神科臨床に加えて、内科医の助言を受けつつ、身体合併症管理から認知症の緊急一時保護まで、多彩な疾患、症例の経験が可能である。地域の児童精神科とも連携し、思春期症例の受け入れも行っている。デイケアや訪問看護も活発に行っており、地域精神医学の知見も深めることが出来る。

⑦ 施設名：医療法人社団 清心会 藤沢病院

- ・施設形態：私立 精神科病院
- ・院長名：石井 紀夫
- ・指導責任者氏名：須山 章
- ・指導医人数：（ 11 ）人
- ・精神科病床数：（ 480 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	503	170
F1	26	9
F2	1257	528
F3	481	85
F4 F50	246	12
F4 F7 F8 F9 F50	354	17
F6	44	4
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）：

当院は急性期治療病棟、認知症治療病棟、療養病棟からなる、8病棟 480床を有する精神科単科病院である。関連施設として老人保健施設を有している。湘南の中心都市藤沢における地域精神医療を担い、急性期から社会復帰期までの幅広い症例を、入院・外来を通じて経験することができる。デイケアなどの精神科リハビリテーション、訪問サービスなどの外来サービスの充実も特徴で、地域福祉との連携を深めながら、地域貢献のために精神医療を実践している。

⑧ 施設名：公益財団法人積善会 曾我病院

・施設形態：公益財団法人単科精神科病院

・院長名：長谷川 剛

・指導責任者氏名：長谷川 剛

・指導医人数：（ 3 ）人

・精神科病床数：（ 399 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	291	35
F1	26	16
F2	669	140
F3	467	56
F4 F50	229	25
F4 F7 F8 F9 F50	2	1
F6	6	4
その他	75	13

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院精神科は 7 病棟、399 床と比較的規模が大きい。精神科救急入院料 1 を 1 病棟、認知症治療病棟 1 を 2 棟、精神療養病棟 4 棟の構成は、救急患者、認知症患者への対応を研修し、急性期から慢性期そして社会復帰へと幅広い包括的な精神医療が経験できるのが最大の特徴である。

また当法人が公益法人であるため、地域との協力体制を心掛けており、福祉施設との連携から障害者を地域でいかに支えていくかという点についても研修を行う。

さらには、夜間休日救急医療体制における措置鑑定や簡易鑑定、医療観察法による触法患者の治療、検察庁による精神鑑定を行う機会もあり、司法精神医学の経験も積むことができる。

⑨ 施設名：医療法人 研水会 平塚病院

- ・施設形態：私立 精神科病院
- ・院長名：大野 史郎
- ・指導責任者氏名：大野 史郎
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 298 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	95	115
F1	6	2
F2	631	367
F3	361	117
F4 F50	110	18
F4 F7 F8 F9 F50	119	1
F6	1	1
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 298 床の精神科単科の病院であり、急性期治療病棟や認知症治療病棟などがある。併設施設としては二箇所のサテライトクリニック、グループホーム、ワークサポート施設、老健施設、特養ホームなどがある。また、県の精神科救急輪番制にも参画し、地域保健所の精神保健相談、認知症相談などの業務も担当している。統合失調症、気分障害、認知症などの早期対応から急性期対応、地域ケアまで医療と福祉を統合しての実践が可能である。

⑩ 施設名：医療法人弘徳会 愛光病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：竹内 知夫
- ・指導責任者氏名：竹内 知夫
- ・指導医人数：（ 6 ）人
- ・精神科病床数：（ 359 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	43	8
F1	6	0
F2	1,032	202
F3	447	95
F4 F50	437	36
F4 F7 F8 F9 F50	826	54
F6	10	1
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

入院医療では、急性期治療病棟及び児童思春期精神科入院医療管理料を算定する病棟を中心に、児童思春期から老年期まで幅広い年代の入院医療を行っており、その他にもうつ・ストレスケア病棟、精神療養病棟、精神一般病棟も有して、急性期から早期社会復帰、慢性期まで幅広く症例を学ぶことができる。また、質の高い精神科医療が提供できるよう施設基準以上のスタッフの配置や看護師比率の高さなども特色である。

外来医療では、統合失調症患者の治療の他、思春期専門外来やうつ・ストレス系疾患の専門外来なども行っている。デイケアでは、統合失調症を中心としたプログラムと休職中の方を対象としたリワークプログラムを行っている。その他にも臨床心理士を多数配置したカウンセリングや訪問看護なども積極的に展開している。

併設施設等：デイケアセンター、精神科作業療法、訪問看護、精神障害者福祉ホーム、クリニック、精神科救急輪番 など

⑪ 施設名：公益財団法人復康会 沼津中央病院・大手町クリニック

・施設形態：民間単科精神科病院・サテライトクリニック

・院長名：杉山 直也

・指導責任者氏名：長谷川 花

・指導医人数：（ 6 ）人

・精神科病床数：（ 286 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

◇沼津中央病院

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	58	17
F1	35	8
F2	933	232
F3	403	94
F4 F50	277	25
F4 F7 F8 F9 F50	295	6
F6	18	2
その他	111	13

◇大手町クリニック

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	9	NA
F1	6	NA
F2	772	NA
F3	403	NA
F4 F50	118	NA
F4 F7 F8 F9 F50	11	NA
F6	31	NA
その他	0	NA

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

沼津中央病院は創立 90 年の歴史を有し、今日まで地域精神医療に取り組んできた。平成 10 年からは静岡県東部の精神科救急基幹病院として、60 床の精神科救急入院料を整えて、急性期から地域生活までの完結型医療によって多職種チームによる一貫したケアを提供している。統合失調症や気分障害や認知症等の代表的疾患のほか、児童から老年期まで多種の精神疾患に対応し、近年は依存症治療プログラム、県内連携による摂食障害治療プログラム、クロザピン、修正型電気痙攣療法等の専門医療の導入も行なっている。また入院患者レジストリによる臨床データ管理、コンフォートルーム、サーカディアンライトルーム、Shared Decision Making に関する研究等、先進的な取り組みにも着手し、包括的な精神科医療拠点として地域に貢献することを目指している。

なお、外来業務は沼津中央病院のサテライトクリニックで行う。サテライトは交通至便な沼津駅前に位置し、昭和 40 年代初頭より、半世紀にわたり、精神疾患の早期発見・早期治療、治療中断・再発防止に重点を置き診療にあたってきた歴史を持つ。一般の精神科クリニックに比べ、内因性精神障害圏の患者数が多いが、市中のクリニックとして、多岐にわたる疾患が経験できる。常勤の精神科ソーシャルワーカー、作業療法士が勤務し、院内にデイケアを有するため、小世帯ながら多職種でのチーム医療や、精神科リハビリテーションが経験できる。

⑫ 施設名：済生会横浜市南部病院

- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：今田 敏夫
- ・指導責任者氏名：古野 拓
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	247	NA
F1	16	NA
F2	29	NA
F3	139	NA
F4 F50	125	NA
F4 F7 F8 F9 F50	3	NA
F6	2	NA
その他	0	NA

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

安全を最優先に安心いただける質の高い精神医療を迅速に提供し続けていくために、当院精神科では無床総合病院精神科として、機能を「身体疾患に関連した精神症状・精神疾患への介入」に絞っている。

原則として当院他科での外来通院・入院加療の際に依頼に応じて対応をしており、病状が安定された方は、近隣の診療所等への逆紹介を促進している。

主な対象疾患は、不眠症、適応障害、心身症・身体表現性障害、不安障害、うつ病、双極性障害、認知症、せん妄などである。入院加療中の方では、不眠、不安、うつ、意欲低下、無関心、興奮などの精神症状に対応している。

⑬施設名：藤沢市民病院

- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：仲野 明
- ・指導責任者氏名：成田 博之
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	135	NA
F1	23	NA
F2	42	NA
F3	55	NA
F4 F50	120	NA
F4 F7 F8 F9 F50	4	NA
F6	6	NA
その他	0	NA

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は神奈川県・湘南東部地区における中核的な位置づけの総合病院である。三次救命救急センターがあり、地域がん診療連携拠点病院に指定されていることから、救急医療やがん医療に力を入れていることが特徴である。

当院のこうした特徴をふまえ、当科における研修では、身体科との連携（リエゾン）および身体合併症を有する患者の診療、自殺企図患者やがん患者の診療などを重点的に経験することが可能である。

なお、精神科の入院病床がないため入院治療は経験できない。

⑭施設名：医療法人誠心会 あさひの丘病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：福島 端
- ・指導責任者氏名：福島 端
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(240) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	59	77
F1	17	14
F2	465	320
F3	352	221
F4 F50	97	69
F4 F7 F8 F9 F50	119	98
F6	4	11
その他	18	2

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は横浜市旭区に所在する単科精神科病院であり、急性期治療病棟、精神科医療全般について学ぶことができる。対象としている疾患は多岐に及び、入院症例は統合失調症、気分障害をはじめ、精神科医として最低限知っておかなければならない疾患のほぼすべてをカバーしている。精神科における一般的な疾患についての知識や基本的技能、薬物療法、行動制限の手順など基礎的な技能と法的な知識を学ぶことができる。補助検査法として心理検査等も多く行なわれており、疾患に対する多面的なア

アプローチを学ぶことができる。

精神科救急病棟を中心に措置入院は年間 170 例にのぼり、救急・当直を実践的に学ぶことができる。社会復帰プログラムや地域生活支援にも積極的に取り組んでおり、法人内に 24 時間連絡体制の訪問看護ステーション、就労移行支援事業所、地域相談支援事業所、生活訓練施設、グループホームを保有する他、地域支援センターへ嘱託医を派遣するなど、複合的な地域連携についても学ぶことができる。

併設施設等：精神科急性期治療病棟、精神科作業療法、精神科救急輪番

⑮施設名：港北病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：山口哲顕
- ・指導責任者氏名：山口哲顕
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 210 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	51	14
F1	4	4
F2	366	208
F3	147	32
F4 F50	76	9
F7 F8 F9	14	3
F6	5	4
その他		

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は210床を有する単科精神科病院であり、精神科デイケア、精神科訪問看護を併設している。地域の内科、外科などの病院、診療所や福祉保健センターなどの公的機関とも連携し、診察にあたっている。また、神奈川県精神科救急医療体制の輪番病院、準基幹病院として精神科救急患者の受け入れにも対応している。一般臨床に加え、依存症、てんかんについても専門施設、専門外来で研鑽を積んだ医師が在籍しており、その医師の指導のもとで診断治療を経験することができる。

⑩施設名：医療法人社団朋友会けやきの森病院

- ・施設形態：医療法人・単科精神科病院
- ・院長名：堤 康彦
- ・指導責任者氏名：田村 紀郎
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 184 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数 (年間)	新入院患者数 (年間)
F0	3	2
F1	3	1
F2	248	51
F3	153	16
F4	108	6
F5	14	1
F6	1	1
F7	2	0
F8	1	2
F9	2	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

神奈川県湘南東部地区における 184 床を有する精神科単科病院である。精神科急性期治療病棟 I 44 床、精神科療養病棟 140 床で運営しており、H24～H28 年まで年平均 212 件の入院受入を行っている。

主に統合失調症圏が 7 割、気分障害圏が 2 割、その他 1 割の入院患者構成となっており、外来はここ数年気分障害圏が増えてきている。これに合わせてデイケアにおいてはリワークプログラムを 3 年前から導入し、現在 1 日平均 15～20 名が利用している。

施設基準等：精神科急性期治療病棟、精神療養病棟、精神科デイケア、精神科作業療法、精神科救急輪番

<週間スケジュール>

	午前(9 : 00～12 : 00)	午後(13 : 00～17 : 00)
月	病棟業務または外来研修	病棟業務
火	病棟業務または外来研修	病棟業務
水	病棟業務または外来研修	病棟業務 クルズス
木	病棟業務または外来研修	病棟業務
金	病棟業務または外来研修	病棟業務 症例検討会(隔週)
土	病棟業務または外来研修	病棟業務 心理教育

<年間スケジュール>

	研修内容
4 月	オリエンテーション
5 月	精神疾患の基礎知識の習得
6 月	薬物療法の基礎知識の習得
7 月	精神保健福祉法の基礎知識の習得
8 月	各入院形態の基礎知識と実際
9 月	精神療法の基礎知識の習得
10 月	薬物療法以外の治療法の可能性について
11 月	精神保健福祉法に基づいた実際の精神科医療について
12 月	精神科救急について
1 月	福祉サービスなどの地域生活支援について
2 月	訪問看護やデイケア、作業所等の見学
3 月	研修の総括・研修報告と評価表の作成

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。各年次毎の到達目標は以下の通りである。

【到達目標】

1年目：原則、基幹病院において、指導医とともに統合失調症、気分障害、器質性精神障害、認知症、摂食障害などの患者を受け持ち、精神科面接、診断と治療計画、薬物療法、精神療法、ケースワークの基本を学ぶ。特に、面接によって情報を抽出し、鑑別診断や病態仮説を考慮しながら治療のポイントとなる事柄を把握すること、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。また、看護師や精神保健福祉士などのコメディカルや、患者家族とも情報を交換し、様々な視点から病態を掘り下げ、治療計画に反映させてゆくことを学ぶ（チーム医療）。コンサルテーション・リエゾンや緩和ケア医療も経験するとともに、うつ病を対象とした復職デイクケアや統合失調症を対象とした **Illness Management and Recovery** プログラムを見学し、集団認知行動療法に触れる。各種画像検査（脳波、MRI、CT、SPECT、PET、MIBG など）の判読も学ぶ。学習機会としては、当教室の集談会や専攻医を対象とした研修会、精神科関連学会に参加し、最新の医療情報や学術情報を得る。指導医や上級医の指導のもと、神奈川県精神医学会などでの発表も行う。ガイドラインを軸とした診断から治療までの標準的な精神医療および最先端の知識などの「学び方を学ぶ」ことが大事である。

2年目：連携協力病院（原則、総合病院精神科・閉鎖病棟）または基幹病院において、指導医とともに精神科救急に従事し、入院の是非の判断、急性期治療などを学ぶ。一般精神科医療においては、指導医の指導を受けつつも、自立して、精神科面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させる。修正型電気けいれん療法なども経験する。精神療法として力動的な精神療法や認知行動療法の基本的な考え方と技法を学び、また、精神病理を学習し、病態の理解を深めてゆく。神経症性障害や種々の依存症、パーソナリティ障害、また、児童思春期患者の診断・治療を経験する。引き続き、当教室の集談会や専攻医を対象とした研修会、精神科関連学会に参加し、最新の医療情報や学術情報を得るとともに、神奈川県精神医学会などでの発表も行う。

3年目：連携協力病院（原則、精神科病院）において、自立して診療できるようにする。急性期治療から慢性期治療まで、幅広い症例の経験を蓄積してゆく。また、精神科デイケアやリハビリテーション・プログラムも含め、地域医療を学ぶ。上級者の指導のもと、認知行動療法などを実践する。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

基幹施設において実施される研究倫理や安全管理についての研修会に他診療科の専攻医とともに参加する。チーム医療の実践により、看護師、精神保健福祉士、臨床心理士などと協同して治療を行い、コミュニケーション能力としての社会性を身につけるとともに、医療倫理に関して多職種からの観点で知見を広げることができる。また、コンサルテーション・リエゾンを通して身体科との連携を持つことにより、医師としての責任や社会性、倫理観などについて、多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例をカンファランスや症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、神奈川県精神医学会等での発表や学会誌などへの投稿を進める。指導医は専攻医の学習姿勢をチェックし、常に指導・助言する。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、コンサルテーション・リエゾンといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事し、その成果を学会や論文として

発表する。特異な症例に関しては症例報告を行う。

⑤ 自己学習

総合病院精神科に勤務している期間は、自己学習として精神科病院や地域中核病院における地域医療を学び、実践する。精神科病院に勤務している期間は、総合病院精神科での外来診療（一般または専門外来）に参加する。

4) ローテーションモデル

詳細は到達目標にも記載されているが、原則として1年目に基幹病院（横浜市立大学附属病院精神科）で研修し、精神科医としての基本的な知識を身につける。2～3年目には総合病院精神科（横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター、横浜医療センター精神科）、精神科病院を各1年間ずつローテートする。この3年間で、精神科専門医や精神保健指定医に必要な症例を経験するとともに、身体合併症治療、難治・急性期症例、児童症例、認知症症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と活用する技術を深めていく。これら3年間のローテート順については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。

また、児童精神科での研修にも対応しており、附属病院もしくは附属市民総合医療センターにおいて経験することが可能である（ただし、年度により受け入れ人数に制限あり）。この際にも、成人症例も同時に担当することが可能である。

このように、基本的な精神科研修コースは基幹病院、総合病院・閉鎖病棟、精神科病院を各1年ローテートすることであるが、本人の希望に応じて柔軟に対応することも可能である。主なローテーションのパターンを下記に示す。



5) 研修の週間・年間計画
別紙参照

4. プログラム管理体制について

- ・プログラム管理委員会

- ・委員長 医師：平安 良雄
- ・医師：高橋 雄一
- ・医師：須田 顕
- ・医師：古野 拓
- ・医師：岩井 一正
- ・医師：加瀬 昭彦
- ・医師：長谷川 吉生
- ・医師：山口 和己
- ・医師：須山 章
- ・医師：長谷川 剛
- ・医師：大野 史郎
- ・医師：小堀 真
- ・医師：長谷川 花
- ・医師：山田 康弘
- ・医師：成田 博之
- ・看護師：鈴木 明子
- ・臨床心理士：藤田 英美

- ・プログラム統括責任者

平安良雄

- ・連携施設における委員会組織

各連携施設の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される

5. 評価について

1) 評価体制

横浜市立大学附属病院：平安 良雄

横浜市立大学附属市民総合医療センター：高橋 雄一

横浜医療センター：古野 拓

神奈川県立精神医療センター：岩井 一正

横浜舞岡病院：加瀬 昭彦

日向台病院：長谷川 吉生

神奈川病院：山口 和己
藤沢病院：須山 章
曾我病院：長谷川 剛
平塚病院：大野 史郎
愛光病院：小堀 真
沼津中央病院：長谷川 花
南部病院：山田 康弘
藤沢市民病院：成田 博之

2) 評価時期と評価方法

- ・ 3か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・ 1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」（別紙）に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

基幹病院である横浜市立大学附属病院にて、専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル（別紙）
- 指導医マニュアル（別紙）

・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこ

と。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

- ・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

- 1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各施設の労務管理基準に準拠する

- 2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する

- 3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の副責任者および指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

- 4) F D の計画・実施

年に1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する

～週間スケジュール～

・横浜市立大学附属病院精神科（週間スケジュール）

（例）

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	初診	再診	病棟カンファ	自己学習 （地域医療）
午後	診療グループ カンファ	病棟業務 急患対応	認知症初診 病棟業務	病棟業務	自己学習 （地域医療）

- ・上記スケジュール内にて脳波判読研修や児童精神科外来診察も可（希望者のみ）
- ・初期臨床研修医への教育として、2か月ごとに20分間のクルズスを担当する
（統合失調症、気分障害、認知症、プライマリケアのうち1つを担当（当番制）、
担当講義資料は医局が用意済み）
- ・木曜日の19時から精神科の集談会・研修会に参加（専攻医は学年・勤務地を問わず
参加可）

【H27年度に催された主な集談会・研修会】

【研究会】

- ・横浜メンタルヘルス講演会
- ・横浜認知症研究会
- ・横浜統合失調症研究会
- ・横浜感情障害研究会
- ・横浜不安抑うつ研究会

【その他】

- ・特別研修会：専門医試験への対応（レポートの書き方、模擬面接試験）
- ・関連病院および研修連携協力病院紹介
- ・診療グループ紹介（児童精神、認知症、てんかん、緩和ケア、復職デイケア）
- ・研究チーム紹介（神経画像、分子・薬理、神経免疫、神経病理、救急救命センター、精神科リハビリテーションなど）

【シニアレジデント研修会】

- ・「精神科面接と精神療法の基本」
- ・「現代の気分障害に対するアプローチ」
- ・「リカバリーについて知っておきたい3つのこと」
- ・「精神科医の診るてんかん診療」
- ・「症例検討会」

*年間スケジュールも参照

横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター（週間スケジュール）

（例）

	月	火	水	木	金
午前	病棟カンファ	外来併診	再診	急患対応	自己学習 （地域医療）
午後	診療グループ カンファ	病棟業務	病棟業務	病棟業務	自己学習 （地域医療）

- ・上記スケジュール内にて脳波判読研修や児童精神科外来診察も可（希望者のみ）
- ・前期研修医への教育として，2 か月ごとに 20 分間のクルズスを担当する
（統合失調症，気分障害，認知症，プライマリケアのうち 1 つを担当（当番制），
担当講義資料は医局が用意済み）
- ・木曜日の 19 時からは精神科の集談会・研修会に参加（専攻医は学年・勤務地を問わず
参加可）

【H27 年度に催された主な集談会・研修会】

【研究会】

- ・横浜メンタルヘルス講演会
- ・横浜認知症研究会
- ・横浜統合失調症研究会
- ・横浜感情障害研究会
- ・横浜不安抑うつ研究会

【その他】

- ・特別研修会：専門医試験への対応（レポートの書き方，模擬面接試験）
- ・関連病院および研修連携協力病院紹介
- ・診療グループ紹介（児童精神，認知症，てんかん，緩和ケア，復職デイケア）
- ・研究チーム紹介（神経画像，分子・薬理，神経免疫，神経病理，救急救命センター，精神科リハビリテーションなど）

【シニアレジデント研修会】

- ・「精神科面接と精神療法の基本」
- ・「現代の気分障害に対するアプローチ」
- ・「リカバリーについて知っておきたい 3 つのこと」
- ・「精神科医の診るてんかん診療」
- ・「症例検討会」

*年間スケジュールも参照

国立病院機構 横浜医療センター（週間スケジュール）

（例）

	月	火	水	木	金
午前	再診	初診 リエゾン 病棟業務	自己学習 （地域医療）	初診 リエゾン 病棟業務	初診 リエゾン 病棟業務
午後	病棟カンファ 病棟業務 医局カンファ	病棟業務	自己学習 （地域医療）	病棟カンファ 病棟業務 医局カンファ	物忘れ外来 病棟業務

修正型電気けいれん療法 週 2～4 回程度 8：40 am～

再来・自己学習の曜日は各専攻医によって異なる。カンファレンスの曜日は必ず当院勤務。

神奈川県立精神医療センター（週間スケジュール）

（例）

	月	火	水	木	金
午前	m-ECT 病棟業務	外来予診/初診	再診	管理者回診	m-ECT 病棟業務
午後	医局会 抄読会 行動制限 評価検討会議 （月 1 回）	医観法病棟治療 評価会議	病棟業務 急患対応	思春期病棟カン ファ 救急病棟カンフ ア	病棟業務

【平成 27 年度に催された主な研修会】

・神奈川県精神医療懇話会「ナチ時代のドイツの統合失調症患者」
・クリニカルパス連携勉強会
・地域移行支援カンファレンス
・神奈川県精神科地域連携を考える会
・神奈川県立精神医療センター公開講座（依存症医療拠点機関設置運営事業）「止められない人たちと依存症」

*年間スケジュールも参照

医療法人 積愛会 横浜舞岡病院（週間スケジュール）

（例）

	月	火	水	木	金	土
午前	入退院 カンファランス	自己学習日	入退院 カンファランス	大学等での研修	入退院 カンファランス	外来業務
午後	病棟業務	自己学習日	病棟業務	大学等での研修	病棟心理教育 参加	抄読会／ 症例検討会
	月に1回診療部会 月に2回当直					

医療法人 誠心会 神奈川病院（週間スケジュール）

（例）

	月	火	水	木	金
午前	再診察	病棟カンファ	自己学習	病棟カンファ	病棟業務
午後	診療グループ カンファ	病棟業務 急患対応	自己学習	病棟業務	病棟業務 急患対応

【H27 年度に催された主な集談会・イベント】

【研究会】

- ・横浜メンタルヘルス講演会
- ・横浜認知症研究会
- ・横浜統合失調症研究会
- ・横浜感情障害研究会
- ・横浜不安抑うつ研究会

公益財団法人積善会 日向台病院（週間スケジュール）

（例）

	月	火	水	木	金	土
8:45-9:15	朝カンファレンス	公休	朝カンファレンス	朝カンファレンス	大学外勤	朝カンファレンス
9:15-12:00	外来（再診）		外来（初診）	病棟業務	大学外勤	外来（再診）
13:00-14:30	病棟カンファレンス		病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
14:30-16:00	病棟業務		病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16:00-17:15	病棟業務		病棟業務	医局会 症例検討会	病棟業務 デイケア カンファレンス	病棟業務

・木曜 19 時から、横浜市大病院にて精神科の集談会・イベント参加

藤沢病院（週間スケジュール）

（例）勤務曜日が月、火、水、金、土の場合

	月	火	水	金	土
午前	病棟申し送り 病棟業務 外来初診	病棟申し送り 病棟業務	病棟申し送り 病棟業務 外来再診	病棟申し送り 病棟業務	病棟申し送り 病棟業務
午後	病棟業務 急患対応	病棟業務 急患対応 病棟カンファ	病棟業務 急患対応	病棟業務 急患対応 医局会 症例検討会	病棟業務 急患対応

- ・当直業務が週 1 回程度ある。
- ・地域の勉強会や院内研修にも適宜参加する予定。
- ・訪問サービス、デイケアなどの実習も可能。
- ・院内の委員会に担当者としての参加がある。

公益財団法人積善会 曽我病院（週間スケジュール）

（例）

	月	火	水	木	金
午前	再診	病棟業務 初診	病棟業務 初診	病棟業務 初診	病棟業務
午後	病棟カンファ	病棟業務	グループカン ファ	病棟業務	自己学習 (大学外来)

- ・脳波判読研修可能

医療法人 研水会 平塚病院（週間スケジュール）

	月	火	水	木	金
9 : 00	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り
9 : 30	隔離室回診 (カルテ記載)	隔離室回診 (カルテ記載)	隔離室回診 (カルテ記載)	隔離室回診 (カルテ記載)	隔離室回診 (カルテ記載)
10 : 00	外来陪席 新患予診 病棟業務	外来陪席 新患予診 病棟業務	外来陪席 新患予診 病棟業務	外来陪席 新患予診 病棟業務	外来陪席 新患予診 病棟業務
13 : 30	病棟カンファ ランス	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16 : 00	医局会	自己学習	自己学習	自己学習	自己学習

医療法人弘徳会 愛光病院（週間スケジュール）

（例）

	月	火	水	木	金
9:00～12:00	外来診療 ※) 1	病棟業務	自己学習	病棟業務	病棟業務
13:00～17:00	病棟業務 ※) 2	病棟業務 ※) 2	自己学習	病棟業務 ※) 2	病棟業務 ※) 2
(16:30)～18:00	医局会議 ※) 3				

※) 1 外来診療は原則週 1 回(半日)。

また、ローテーションにより随時新患外来の診療を行う。

※) 2 適宜、病棟にて受持ち患者のカンファレンス、受持ち患者の退院支援委員会に参加する。

※) 3 毎月 1 回第 3 月曜日の 16 時 30 分より、医局会議に参加する。

公益財団法人復康会 沼津中央病院・大手町クリニック（週間スケジュール）

☆週間予定は水曜日が大学での研究日の場合で作成

	月	火	水	木	金	土
8:40～9:30	病棟カンファ	病棟カンファ		病棟カンファ		病棟カンファ
9:30～12:00	病棟業務	病棟業務	研究日	新患カンファ 院長回診	9 時～外来業務 (サテライトクリニック)	mECT
13:00～13:20	ベッド会議	ベッド会議		ベッド会議	ベッド会議	ベッド会議
13:20～17:30	新患当番	公休	公休	急患当番 医局会	病棟業務	病棟業務 デイクア担当
17:30～18:00		研究会			院内研修会	

※外来はサテライトクリニックで診療

済生会横浜市南部病院精神科（週間スケジュール）

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務 併診再診	自己学習 (地域医療)	病棟業務 併診再診	病棟業務 カンファ	病棟業務 併診再診
午後	病棟併診初診 カンファ	病棟併診初診 カンファ	緩和チーム回診 緩和カンファ	自己学習 (地域医療)	病棟併診初診 カンファ

- ・救急外来や他科受診中の精神症状に関する相談や依頼には要請に応じ適宜対応する。
- ・水曜午後は、緩和ケアチーム業務に携わる。
- ・木曜日の 19 時からの横浜国立大学精神科主催の集談会・イベントへの参加を求める。
- ・病院内の諸委員会・各医療チームが主催する院内研修に参加が求められる。特に医療安全、コンプライアンス、ES/CS(接遇)、緩和ケアに関しては、原則参加とする。奇数月に開催される地域医療連携研修会は可能であれば参加が望ましい。

藤沢市民病院精神科（週間スケジュール）

	月	火	水	木	金	土	日
朝						当番制で オンコール	当番制で オンコール
午前	外来	他科病棟 往診	外来	他科病棟 往診	外来	当番制で オンコール	当番制で オンコール
午後	緩和ケア 回診（隔週）	他科病棟 往診	他科病棟 往診	カンファレ ンス	大学などで 診療に従事	当番制で オンコール	当番制で オンコール
夕方	緩和ケア カンファレ ンス					当番制で オンコール	当番制で オンコール

～年間スケジュール～

・横浜市立大学附属病院精神科（年間スケジュール）

4 月	専門医研修開始 オリエンテーション（合同医局会） シニアレジデント研修会 横浜メンタルヘルス講演会 診療グループ紹介 専攻医グラウンドラウンド（各月開催）
5 月	研究チーム紹介 横浜認知症研究会 シニアレジデント研修会
6 月	日本精神神経学会学術総会（任意） 横浜統合失調症研究会
7 月	特別研修：専門医試験（模擬面接）（該当者のみ）
8 月	
9 月	研修連携協力病院および関連病院の紹介 症例検討会
10 月	シニアレジデント研修会 横浜感情障害研究会 専攻医研修中間報告書提出
11 月	横浜不安抑うつ研究会
12 月	シニアレジデント研修会
1 月	特別研修：専門医試験（ケースレポート）
2 月	神奈川県精神医学会例会 症例検討会
3 月	専攻医研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成

*シニアレジデント研修会や症例検討会の開催日は不定期

（横浜市立大学精神医学教室の HP（<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~psychiat/>）を参照）

*少なくとも年に 1 回の学会参加は可能

*7～10 月の夏季休暇期間中に 5 日間の休暇の取得が可能

横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター（年間スケジュール）

4 月	専門医研修開始 オリエンテーション（合同医局会） シニアレジデント研修会 横浜メンタルヘルス講演会 診療グループ紹介 専攻医グラウンドラウンド（各月開催）
5 月	研究チーム紹介 横浜認知症研究会 シニアレジデント研修会
6 月	日本精神神経学会学術総会（任意） 横浜統合失調症研究会
7 月	特別研修：専門医試験（模擬面接）（該当者のみ）
8 月	
9 月	研修連携協力病院および関連病院の紹介 症例検討会
10 月	シニアレジデント研修会 横浜感情障害研究会 専攻医研修中間報告書提出
11 月	横浜不安抑うつ研究会
12 月	シニアレジデント研修会
1 月	特別研修：専門医試験（ケースレポート）
2 月	神奈川県精神医学会例会 症例検討会
3 月	専攻医研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成

*シニアレジデント研修会や症例検討会の開催日は不定期

（横浜市立大学精神医学教室の HP（<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~psychiat/>）を参照）

*少なくとも年に 1 回の学会参加は可能

*7～10 月の夏季休暇期間中に 5 日間の休暇の取得が可能

国立病院機構 横浜医療センター（年間スケジュール）

4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	日本総合病院精神医学会参加（任意）
12 月	
1 月	
2 月	神奈川県精神医学会参加（任意）
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

神奈川県立精神医療センター（年間スケジュール）

4 月	オリエンテーション／新採用・転入職員研修 研修開始／前年度研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5 月	CVPPP（包括的暴力防止プログラム）研修
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 感染防止研修 日本司法精神医学会参加（任意）
7 月	医療事故防止研修
8 月	
9 月	
10 月	専攻医中間研修報告書提出 院内研究発表会 1 回目 日本児童青年医学会参加（任意）
11 月	
12 月	研修プログラム管理委員会参加 院内研究発表会 2 回目 日本精神科救急学会参加（任意）
1 月	医療安全フォーラム参加
2 月	神奈川県精神医学会例会参加・演題発表 情報セキュリティー研修 衛生委員会研修
3 月	専攻医研修報告書作成 研修プログラム評価報告書作成
その他	医療観察法院内研修会（年数回） 司法鑑定研究会（随時）

医療法人 積愛会 横浜舞岡病院（年間スケジュール）

年間計画	
4 月	
5 月	
6 月	日本精神神経学会総会参加
7 月	
8 月	
9 月	
10 月	日本精神障害者リハビリテーション学会参加
11 月	
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	日本統合失調学会参加・発表 神奈川県精神医学会参加

医療法人 誠心会 神奈川病院（年間スケジュール）

4 月	専門医研修開始 オリエンテーション（合同医局会）
5 月	横浜認知症研究会
6 月	日本精神神経学会学術総会（任意） 横浜統合失調症研究会
7 月	
8 月	
9 月	症例検討会
10 月	横浜感情障害研究会 特別研修：指定医試験（ケースレポート）
11 月	横浜不安抑うつ研究会
12 月	
1 月	
2 月	神奈川県精神医学会例会
3 月	

*少なくとも年に1回の学会参加は可能。

*7～10月の夏季休暇期間中に5日間の夏季休暇の取得が可能。

公益財団法人積善会 日向台病院（年間スケジュール）

4 月	新入職員オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神科神経学会学術総会参加
7 月	臨床倫理講習
8 月	
9 月	個人情報保護管理講習
10 月	日本児童青年精神医学会参加
11 月	
12 月	救急蘇生法講習 CVPPP（包括的暴力防止プログラム）研修
1 月	院内研究報告会
2 月	神奈川県精神医学会参加・演題発表
3 月	研修プログラム評価報告書の作成

その他：デイケア家族教室（月 1 回）

横浜市立大学精神医学教室 教室会議・集談会・講演会などへ参加（随時）

各種精神医学会参加（任意）

藤沢病院（年間スケジュール）

4 月	専門医研修開始 オリエンテーション・診療グループ紹介 院内研修・症例検討会
5 月	院内研修・症例検討会
6 月	日本精神神経学会学術総会（任意・時期は変更あり） 院内研修・症例検討会
7 月	院内研修・症例検討会
8 月	院内研修・症例検討会
9 月	院内研修・症例検討会
10 月	院内研修・症例検討会
11 月	院内研修・症例検討会
12 月	院内研修・症例検討会 院内研究発表
1 月	院内研修・症例検討会
2 月	神奈川県精神医学会例会（任意） 院内研修・症例検討会
3 月	専攻医研修報告書 院内研修・症例検討会

＊院内研修が年間を通じて毎月複数回開催される。医局講師として担当することもある。

＊該当時は精神保健指定医の講習会参加がある。

公益財団法人積善会 曽我病院（年間スケジュール）

4 月	症例検討会
5 月	症例検討会
6 月	日本精神神経学会学術総会（任意） 症例検討会
7 月	症例検討会
8 月	症例検討会
9 月	症例検討会
10 月	症例検討会
11 月	症例検討会
12 月	症例検討会
1 月	症例検討会
2 月	神奈川県精神医学会例会（任意） 症例検討会
3 月	症例検討会

医療法人 研水会 平塚病院（年間スケジュール）

4 月	オリエンテーション
5 月	地域精神医療講演会参加
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 日精協認知行動療法研修会参加
7 月	地域精神医療講演会参加
8 月	地域精神医療講演会参加
9 月	地域精神医療講演会参加
10 月	日精協認知行動療法研修会参加
11 月	日本精神科医学会学術大会参加 ストレスチェック研修会参加
12 月	地域精神医療講演会参加
1 月	地域精神医療講演会参加
2 月	神奈川県精神医学会例会
3 月	研修プログラム総括的評価

医療法人弘徳会 愛光病院（年間スケジュール）

4 月	院内オリエンテーション(3日間) 研究会(神精協主催)
5 月	院内研修(禁煙教育) 講演会(日精協神奈川県支部・厚木医師会共催)
6 月	院内研修(院内感染) 神奈川県精神医療懇話会、日本精神神経学会学術総会、 厚木児童思春期ネットワーク主催ミニワーク
7 月	院内研修(行動制限) 症例検討会(東海大学)、神精協神精診合同講演会
8 月	院内研修(防災) 厚木児童思春期ネットワーク本講座
9 月	院内研修(医療安全)、職員伝達講習 神精協研修会
10 月	院内研修(褥瘡対策) 日本精神科医学会
11 月	院内研修(院内感染)、院長講話 厚木児童思春期ネットワーク主催ミニワーク
12 月	院内研修(医療安全)
1 月	院内研修(人権倫理と個人情報)
2 月	院内研修(防災) 院内研究発表会
3 月	職員伝達講習 総括的評価

※その他、各部門で開催する研修等へ随時参加可。

公益財団法人復康会 沼津中央病院・大手町クリニック（年間スケジュール）

4 月	オリエンテーション・院内研修会
5 月	院内研修会
6 月	日本精神神経学会参加・院内研修会
7 月	院内研修会
8 月	院内研修会
9 月	静岡県東部精神科懇話会参加・院内研修会
10 月	日本精神科救急学会参加・院内研修会
11 月	院内研修会
12 月	院内研修会
1 月	院内研修会
2 月	法人研究発表会参加・院内研修会
3 月	静岡県東部精神科懇話会参加・研修プログラム評価報告書の作成・院内研修会

済生会横浜市南部病院精神科（年間スケジュール）

（横浜市大での行事への参加を求める）

4 月	オリエンテーション（合同医局会） シニアレジデント研修会（横浜市大） 横浜メンタルヘルス講演会（横浜市大）
5 月	横浜認知症研究会（横浜市大） シニアレジデント研修会（横浜市大）
6 月	日本精神神経学会学術総会（任意） 横浜統合失調症研究会（横浜市大）
7 月	特別研修：専門医試験（面接）（該当者）
8 月	
9 月	研修連携協力病院および関連病院の紹介（横浜市大） 症例検討会
10 月	シニアレジデント研修会（横浜市大） 横浜感情障害研究会（横浜市大） 専攻医研修中間報告書提出
11 月	横浜不安抑うつ研究会（横浜市大）
12 月	シニアレジデント研修会（横浜市大）
1 月	特別研修：専門医試験（ケースレポート）
2 月	神奈川県精神医学会例会
3 月	専攻医研修報告書（横浜市大） 研修プログラム評価報告書の作成

*シニアレジデント研修会や症例検討会の開催日は不定期。

*少なくとも年に1回の学会参加が可能。

*7～10月の夏季休暇期間中に5日間の休暇の取得が可能。

*病院内の諸委員会・医療チームが主催する院内研修に参加が求められる。特に医療安全、緩和ケア、ES/CS(接遇)に関しては、原則参加とする。

藤沢市民病院精神科（年間スケジュール）

4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	
8 月	
9 月	藤沢市民病院緩和ケア研修会参加 日本サイコオンコロジー学会参加（任意）
10 月	
11 月	日本総合病院精神医学会参加・演題発表
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	